

保健体育科教科書における性教育の異性愛主義に関する研究

—性的マイノリティの不在性に着目して—

和田真理絵¹⁾

キーワード：性教育、異性愛主義、性の多様性、性的マイノリティ、保健体育科教科書

1. 研究背景

近年、社会全体にて性の多様性への関心が高まっている。学校教育においても性の多様性を尊重する意識が高まりつつあり、学習内容に取り入れる動きもみられている¹⁾。その一方で、体育科・保健体育科を中心に学校で学習する性に関する指導（以下、性教育とする）の内容は異性愛を前提にしている。小学校および中学校の学習指導要領とその解説には、体育編にて「異性への関心が芽生える」、保健体育編にて「異性への関心が高まったりする」という異性愛中心の記述があり、同性愛などをはじめとした異性愛以外の性的指向の存在を想定していないという指摘がされている^{2,3)}。小学校および中学校の学習指導要領は平成 29 年に改訂が行われたが、新学習指導要領に性の多様性に関する記述は盛り込まれず、異性への関心に関する記述がそのまま引き継がれた⁴⁻⁶⁾。

性的マイノリティ当事者は、性教育に対して「学校で使う教科書に性的指向や性自認に対する配慮がなく、自尊感情が深く傷ついた」、「保健の教科書に異性を好きになるという旨の記述があり、自分は普通じゃないのだと思った」といった声を挙げている^{7,9)}。さらに、『異性への関心』に関する内容だけでなく、『性感染症・エイズとその予防』や『結婚生活・家族計画』に関する内容にも言及している。これら二つの学習内容に対しては、「典型的な異性間の性行為しか想定しておらず、コンドームは避妊具のみとしてしか扱われず、HIV・性感染症予防のために必要な情報を得ることができなかった」、「自分のロールモデルが見つけれなかった」、「将来の妊娠出産や異性との結婚を、当たり前の決

定事項のように教えられることが嫌だった」など、異性愛が暗黙の前提となっていることについて声を挙げている^{7,9)}。当事者によるこれらの声から、『異性への関心』だけでなく、性的指向が関わってくるテーマである『性感染症・エイズとその予防』や『結婚生活・家族計画』を含めた複数の学習内容にわたって異性愛が暗黙の前提となっていることが考えられる。

学校教育では検定済教科用図書（以下、教科書とする）が使用されており、保健の授業において児童生徒が性教育を学習する時にも使用されている。教科書は授業をはじめとする教育活動の中心的な教材であり、学習を進めるうえで重要な役割を果たしている^{10,11)}。これまでに保健体育科の教科書には、「異性への関心が高まる」という旨の記述によって異性のみが性愛の対象として扱われており、異性愛主義（異性愛を“自然”なものとして捉えてそれを規範化し、中心化する思想¹²⁾）に基づいているという指摘がされている^{13,14)}。ただし、指摘の対象は『異性への関心』での「思春期になると異性への関心が芽生え、高まる」という旨の記述のみにとどまっておらず、単元全体における表現のあり方の特徴や『性感染症・エイズとその予防』、『結婚生活・家族計画』に関する指摘は見られない。

『性感染症・エイズとその予防』や『結婚生活・家族計画』について記載している中学校および高等学校の学習指導要領とその解説^{15,16)}では、取り上げる内容の文脈を男女間や異性愛に限定するような表現はみられず、性的指向に中立的な記述がしてあると受け取ることが可能だと考える（ただし、日本では、2022 年 7 月現在も同性婚が法整備されていないため、結婚に関

1) 岡山大学大学院教育学研究科修士課程

する記述では必然的に男女間が想定されることを考慮する必要がある)。当事者から学習内容の異性愛性を指摘する声が挙がっていることを受けて、教材として使用される教科書では、『異性への関心』に関する内容だけでなく、『性感染症・エイズとその予防』や『結婚生活・家族計画』に関する内容も異性愛に基づいた記述や表現をしているのではないかと考えた。

言語表現において、「人」、「われわれ」といった性を指定しない人物を指す言葉は、男女両方を指すことができるにも関わらず、実際には男を指す言葉として使用されていたり、解釈されていたりする¹⁷⁾。このような言語における性別に関する表現を参考にして、教科書での性教育に関する記述では性を指定しない人物を指す言葉が実際には異性や男女という意味で用いられているのではないかと考えた。また、それに伴い、人物を描いた掲載図では異性愛を前提にした描写がされているのではないかと考えた。

そこで本研究では、平成 20、21 年に改訂された中学校および高等学校学習指導要領^{15,16)}に準拠する保健体育科教科書の性教育に関する記述で用いられた「人物を指す語」と、掲載図に描かれた「人物」に着目し、表現の特徴を性別の観点から検討することで、保健体育科教科書では性的指向が関わってくる学習内容について、異性愛を前提にして記述や描写をしていることを明らかにすることを目的とする。具体的には、以下の 2 点の仮説について検討する。

- (1) 記述：性を指定しない人物を指す語が異性や男女を指している
- (2) 掲載図：描かれた人物が異性愛に基づいた行動を取っている

2. 対象と方法

(1) 分析対象

文部科学省教科書目録（平成 30 年 4 月）に掲載されている中学校用「保健体育」および高等学校用「保健体育」の教科書 7 冊を調査対象とした。調査対象とした教科書の記載内容のうち、『異性への関心』、『性感染症・エイズとその予防』、『結婚生活・家族計画』に関する記述と掲載図を分析対象とした。記述は、本文および

文章のタイトル、注釈、掲載図のタイトルと説明文、ふきだし、会話文、選択項目を分析対象とし、テキストデータとして用いた。単元名と表中の凡例、数値は分析対象から除外した。掲載図は、人物または人物を表した図形で、描写内容に性的指向の要素が関わるものを分析対象とした。

(2) 分析方法

①記述

記述の分析では、KH-coder¹⁸⁾を用いて計量テキスト分析を行った。計量テキスト分析では、文章をテキストデータとして扱い計量的に内容分析を行うことができる。人物を指す語を対象に計量テキスト分析を行うことで、「性別が限定される語」と「性別が限定されない語」の使用頻度や用い方の特徴を探ることができる。記述の分析は単元別に行い、単元内と単元間の比較によって特徴を検討した。本研究では、中学校用と高等学校用の保健体育科教科書の記述や描写内容の特徴の比較は目的としていないため、調査対象となった 7 冊の教科書を校種で分けずに合わせて分析を行った。

階層的クラスタ分析を行い、分析結果を用いてコーディングルールを作成した。そして、コーディングルールを用いた類似度行列の作成により分析を行った。分析の集計単位はすべて「段落」とした。分析に用いる語数が 75 程度となるように、出現数による語の取捨選択における最小出現数を単元ごとに設定した。階層的クラスタ分析では、方法を Ward 法、距離を Jaccard 係数にし、クラスタ数は Auto に指定した。

コーディングルールについては、記述中に用いられた人物を指す語を、「性別が限定される語」と「性別が限定されない語」、「性別が限定される語と限定されない語の併用（性別が限定されない語を異性や男女の意味で用いた表現）の有無」の 3 パターンに分類するためのコーディングルールを作成した。また、記述中に頻出する語を用いて記述内容に関するコーディングルールを作成した。頻出する語については階層的クラスタ分析によって抽出し、同じ話題の中で使われている語同士でクラスタ分けした。各

クラスターに分類された語を概観し、調査対象の教科書で取り扱われている内容を踏まえてグループ名を与え、コーディングルールとしてまとめた。そして、作成したコーディングルールを用いてコーディングを行い、記述から人物を指す語と頻出する語を抽出し、各グループに分類した。

人物を指す語を分類した各グループと記述に頻出する語を分類した各グループをそれぞれ掛け合わせ、人物を指す語の種類と学習内容の関連について検討した。グループ同士の関連の強さは Jaccard 係数によって測定した。

以下、『』に学習内容の単元名を、[] に人物を指す語のコーディングルールのカテゴリ名を、【 】に記述中に頻出する語を分類したグル

ープ名を、《 》に人物を指す語を分類したグループ名を示す。

②掲載図

「図の種類」、「表現内容（読み取れる行動の特徴と性別の組み合わせ）」、「読み取れる性的指向」の観点から分類基準を作成し、掲載図から読み取った性的指向の表現をもとに掲載図の分類を行った（表 1）。掲載図に描かれた人物の性別は、図におけるジェンダー表現を手がかりに判別を行った（表 2）。予備検討において、掲載図には、描かれた人物がトランスジェンダーであることが直接読み取れることを可能にする表現がみられなかったことから、全てシスジェンダーとして描かれたと想定したうえで人物の性別を判別し、掲載図の分類を行った。

表 1 読み取れる性的指向の分類基準

掲載図における表現				
図の種類	表現		読み取れる性的指向	
	行動・説明文の特徴	性別の組み合わせ		
・人物を描いたイラストや写真	恋愛感情やパートナー関係などが読み取れる表現がある 例) ・相手を見つめる ・相手に対してハートを用いている ・お互いに視線をそらす、気まずい様子 ・線で人物同士が結びつけられている ・相手と手をつなぐ ・2人が親しげな様子 ・両親が描かれている	異性に対して 異性同士	異性愛	
		同性に対して 同性同士	同性愛	
		対象問わず	中立的	
		・誰かに関するセリフがある ・図を説明する文がある	異性について・異性間 性を限定していない	異性愛 中立的
	・人物を表した図形	・線で図形が結び付けられている ・複数の図形が組み合わせられている ・人物の状況を表すために人物以外の図が使われている	異なる色や形のもの	異性愛
			同じ色や形のもの	中立的 (一種類のみの図形が使用されていた場合)
		・図を説明する文がある		異性について・異性間 性を限定していない
同性について・同性間	同性愛			

表2 人物の性別 判別基準の例

【女性・女子】

(例) 髪が耳元や肩より長い、もしくは結んでいる、スカートを履いている、女子生徒向けの制服を着用している、リボンを身に付けている、ハイヒールを履いている

【男性・男子】

(例) 髪型が耳元までの長さの短髪、ズボンを履いている、男子生徒向けの制服を着用している、ネクタイを身に付けている

二人の人物が寒色系と暖色系の色で描き分けがされているなど、色彩による表現も性別の判別基準に取り入れた。

3. コーディングルール作成までの結果

(1) 基礎集計

分析対象となった語の数は、『異性への関心』は、総抽出語数は1,610語、語の種類は495語となった。『性感染症・エイズとその予防』は、総抽出語数は4,186語、語の種類は808語となった。『結婚生活・家族計画』は、分析対象となった総抽出語数は2,251語、語の種類は636語となった。総抽出語のうち人物を指す語は、『異性への関心』は39語、『性感染症・エイズとその予防』は43語、『結婚生活・家族計画』は38語となった。人物を指す語のうち、性別が限定される語の語数と出現回数は、『異性への関心』は39語中12語(30.8%)であり、218回中97回(44.5%)であった。『性感染症・エイズとその予防』は43語中9語(20.9%)であり、257回中51回(19.8%)であった。『結婚生活・家族計画』は38語中9語(26.7%)であり、189回中48回(25.4%)であった。頻出語と人物を指す語を、それぞれ単元別で表3~8にまとめた。人物を指す語のうち、性別が限定される語は太字および下線で示した。

(2) 階層的クラスター分析およびコーディングルールの作成

階層的クラスター分析の結果、『異性への関心』は8つのクラスター、『性感染症・エイズとその予防』は9つのクラスター、『結婚生活・家族計画』は8つのクラスターに分類された。結果の図に示された一番上のクラスターを第1ク

ラスターとし、クラスターごとに結果を解釈した。また、クラスター分析の結果を用いて記述内容に関するコーディングルールを作成した。階層的クラスター分析の結果を図1~3に示した。

『異性への関心』の分析結果は、「1. 性衝動にまかせた行動」、「2. セクシュアルハラスメント」、「3. 適切な態度と行動選択」、「4. 性的関心を持つ年齢と経験」、「5. 親密な関係」、「6. 異性への関心などの高まり」、「7. 異性を尊重する態度」、「8. 心身の成熟と変化」に関する内容として解釈した。

『性感染症・エイズとその予防』の分析結果は、「1. 検査と治療」、「2. 病原体を含むもの」、「3. 有効な予防方法」、「4. 感染経路」、「5. 男性に見られる自覚症状」、「6. 日本と世界のエイズ動向」、「7. 感染者の増加傾向と低年齢化」、「8. エイズの疾病概念」、「9. 自覚症状の現れにくさ」に関する内容として解釈した。コーディングルールの作成にあたり、「6. 日本と世界のエイズ動向」は、語が抽出された記述において性別が限定されない語のみを用いていたためルールから除外した。また、「8. エイズの疾病概念」は、語が抽出された記述において人物を指す語の出現回数が顕著に少なかったためルールから除外した。

『結婚生活・家族計画』の分析結果は、「1. コンドームによる避妊」、「2. 低用量ピルによる避妊」、「3. 各避妊法の特徴」、「4. 自然死産と年齢」、「5. 家族計画」、「6. 家族と健康」、「7. 良好な人間関係」、「8. 結婚生活と健康」に関する内容であると解釈した。コーディングルールの作成にあたり、「4. 自然死産と年齢」は、語が抽出された記述が自然死産に関する内容であり、異性愛主義の影響は受けない記述内容であると判断してルールから除外した。

作成したコーディングルールを表9~11に示した。

表3 『異性への関心』頻出語

出現回数	抽出語	語数
50以上	異性	1
40～49	該当なし	0
30～39	相手	1
20～29	思春期, 変化, 自分, 性, 心, 行動, 関心, 理解	8
10～19	気持ち, 尊重, 男女, 性意識, 違い, 高まる, おたがい, 人, 体, 考える, 行為, 時期, 性的, 大切	14
5～9	意識, 知る, 感情, 強い, 経験, 好き, 女性, 人間関係, 必要, 起こる, 交際, 親しい, 選択, 男性, 問題, と, 個人差, 傷つける, 性的欲求, 精神, 大きい, 大人, 男女差, 妊娠, 年齢, 立場, 意志, 感じる, 結果, 考え方, 私たち, 性感染症, 成長, 生じる, 伝える, 望む	36
計		60

表4 『異性への関心』人物を指す語

出現回数	抽出語	語数
50以上	異性	1
40～49	該当なし	0
30～39	相手	1
20～29	自分	1
10～19	男女 , おたがい, 人	3
1～9	女性 , 男性 , 私たち, 友達, 子ども, 男子 , あなた, 母 , 女子 , 一人ひとり, 知人, 中学生, 父 , 両親, 個人, 人びと, 人間, 全員, 同性 , きょうだい, すべての人, それぞれ, だれ, メル友, 学校の先生, 自ら, 他の人, 多くの人, 第三者, 彼 , 恋人, 女 , 男	33
計		39

抽出語のうち、太字および下線は性別が限定される語

表5 『性感染症・エイズとその予防』頻出語

出現回数	抽出語	語数
100以上	感染, HIV, 性感染症, エイズ	4
50～99	感染者	1
40～49	症状, 予防, 治療, 性的接触	4
30～39	血液, 病気, 検査, 多い, 場合	5
20～29	患者, 感染症, 受ける, 性器クラミジア感染症, 発病	5
10～19	人, 世界, 病原体, 相手, 性器, 日本, 感染経路, 出る, 性行為, 原因, 広がる, 正しい, 精液, 免疫, 女性, 男性, 年, 膣分泌液, 若い人たち, 受診, 増加, 尿道, 必要, 問題, 性器ヘルペスウイルス感染症, コンドーム, 危険, 傾向, 抗体, 現在, 粘膜, 排尿, 有効, さまざま, リンパ球, 自覚, 数, 潜伏期, 方法, 淋菌感染症, 他の人, わが国, 近年, 治る, 注射, 膿, 避ける, 報告	48
9	自分, ウイルス, 可能, 考える, 接触, 早期, 対策, 長い, 保健所	9
計		76

表6 『性感染症・エイズとその予防』人物を指す語

出現回数	抽出語	語数
50以上	感染者	1
30～49	該当なし	0
20～29	患者	1
10～19	人, 相手, <u>女性</u> , <u>男性</u> , 若い人たち, 他の人	6
1～9	自分, <u>彼</u> , <u>母</u> , 胎児, <u>男</u> , <u>女</u> , パートナー, 個人, 人間, 子, 人びと, 自分の相手, 青少年, 本人, 薬物乱用者, 専門医, あなた, ある一人, それぞれの人, <u>異性</u> , 医者, 関係者, 死者, 次世代, 成人, 赤ちゃん, 全人類, 多くの人, 大学生, <u>男女</u> , <u>同性</u> , パウル・エールリヒ, 秦佐八郎, 二人, 不特定多数の人	35
計		43

抽出語のうち、太字および下線は性別が限定される語

表7 『結婚生活・家族計画』頻出語

出現回数	抽出語	語数
50以上	健康	1
40～49	避妊	1
30～39	子ども, 結婚, 妊娠	3
20～29	必要, 年齢, 結婚生活, 使用	4
10～19	女性, 家族, 出産, 低用量ピル, コンドーム, 場合, 喫煙, 死産, パートナー, 家族計画, 効果, 家庭, 装着, 大切, 状態, 予防, 影響, 可能, 高い, おたがい, 子宮, 性交, 望む	23
6～9	医師, 確実, 考える, 自然, 場, 親, 発達, 服用, 産む, 心身, 生活習慣, 責任, 適切, 母体, 方法, 問題, 膈, さまざま, 陰茎, 環境, 起こる, 社会, 受ける, 性感染症, 精神, 前, 男性, 両親, それぞれ, 育てる, 感染, 時期, 食事, 人間関係, 精液, 排卵, 利用, 良好	38
計		70

表8 『結婚生活・家族計画』人物を指す語

出現回数	抽出語	語数
30以上	子ども	1
20～29	該当なし	0
10～19	<u>女性</u> , 家族, パートナー, おたがい	4
1～9	医師, <u>男性</u> , 両親, 胎児, <u>母</u> , 自分, <u>男女</u> , 喫煙者, 高校生, <u>夫婦</u> , 未成年者, 相手, 非喫煙者, <u>配偶者</u> , <u>父母</u> , 2人, あなた, 異なる生活をしてきた者, 親子, <u>父</u> , 恋人, 全員, <u>母子</u> , 1人, 高齢者, 私たち, 若い人たち, 周囲の人, 助産師, 当人, 乳幼児, 被害者, 保護者	33
計		38

抽出語のうち、太字および下線は性別が限定される語

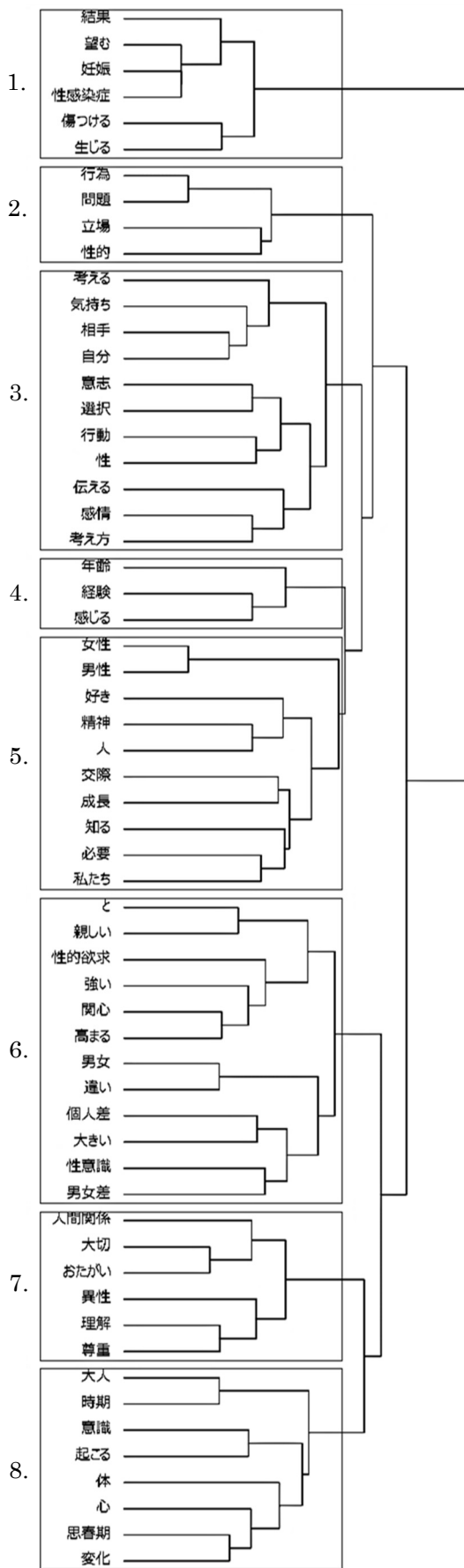


図1 『異性への関心』
階層的クラスター分析

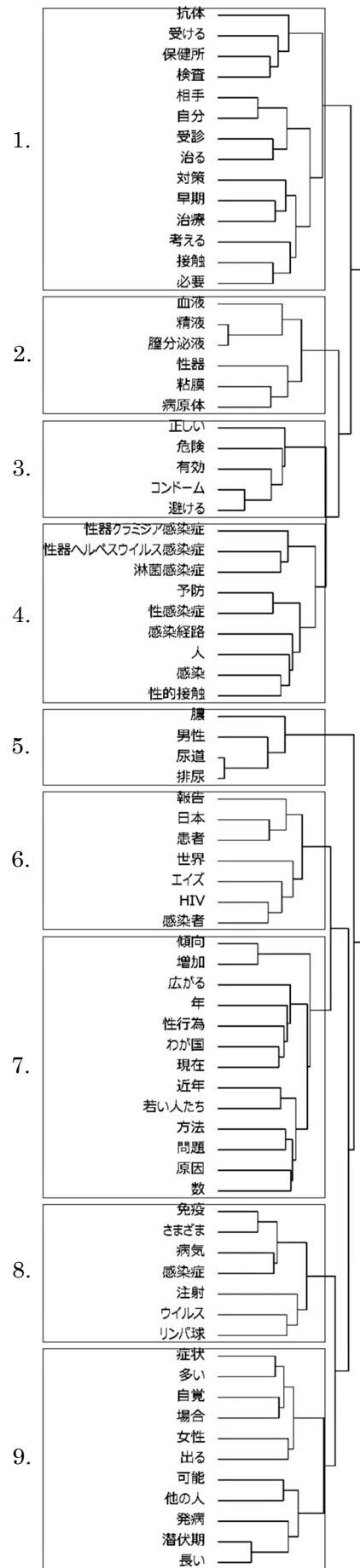


図2 『性感染症・エイズとその予防』
階層的クラスター分析

表9 『異性への関心』コーディングルール

* 自分と相手 '自分と相手' or '自分や相手'
* 男性と女性 '男性と女性' or '男子と女子'
* 性別が限定される語 (一人) 異性 or 同性 or 彼 or 女 or 男 or 男性 or 女性 or 男子 or 女子
* 性別が限定されない語 (一人) 人 or 個人 or だれ or 他の人 or 自分 or 相手
* 性別が限定される語 (複数) 男女 or <* 男性と女性>
* 性別が限定されない語 (複数) おたがい or 私たち or 一人ひとり or 人間 or 全員 or すべての人 or それぞれ or <* 自分と相手>
* 性別が限定される語 <* 性別が限定される語 (一人) > or <* 性別が限定される語 (複数) >
* 性別が限定されない語 <* 性別が限定されない語 (一人) > or <* 性別が限定されない語 (複数) >
* 異性愛が暗黙の前提 seq(異性-おたがい)[d0] or near(男女-おたがい)[d0] or near(自分-異性)[d0] or near(異性-私たち)[d0] or seq(異性-相手)[d0] or seq(男女-人間)[d0] or seq(異性-男性-女性)[d0] or seq(異性-男子-女子)[d0]
* 性的指向に中立的 <* 性別が限定されない語> and not <* 性別が限定される語>
* ①心身の成熟と変化 大人 or 時期 or 意識 or 起こる or 思春期 or 変化 or ((体 or 心) and 変化) or (性意識 and 変化) or (関心 and (性 or 性的))
* ②異性への関心などの高まり (性意識 and (男女差 or 個人差)) or 個人差 or 大きい or 親しい or 違い or 性的欲求 or 強い or (異性 and 関心) or 高まる or 好き or 交際
* ③問題となる行為 (行為 or 問題) and (立場 or 性的) or 行為 or (立場 and not 感情)
* ④性衝動にまかせた行動 (傷つける and (妊娠 or 性感染症)) or 妊娠 or (望む and 妊娠) or (生じる and 結果) or 性感染症
* ⑤適切な態度と行動選択 意志 or 行動 or 選択 or 気持ち or 伝える or (行動 and (考える or 考え方 or 感情))
* ⑥異性を尊重する態度 人間関係 or 大切 or (理解 and (尊重 or 大切)) or 尊重

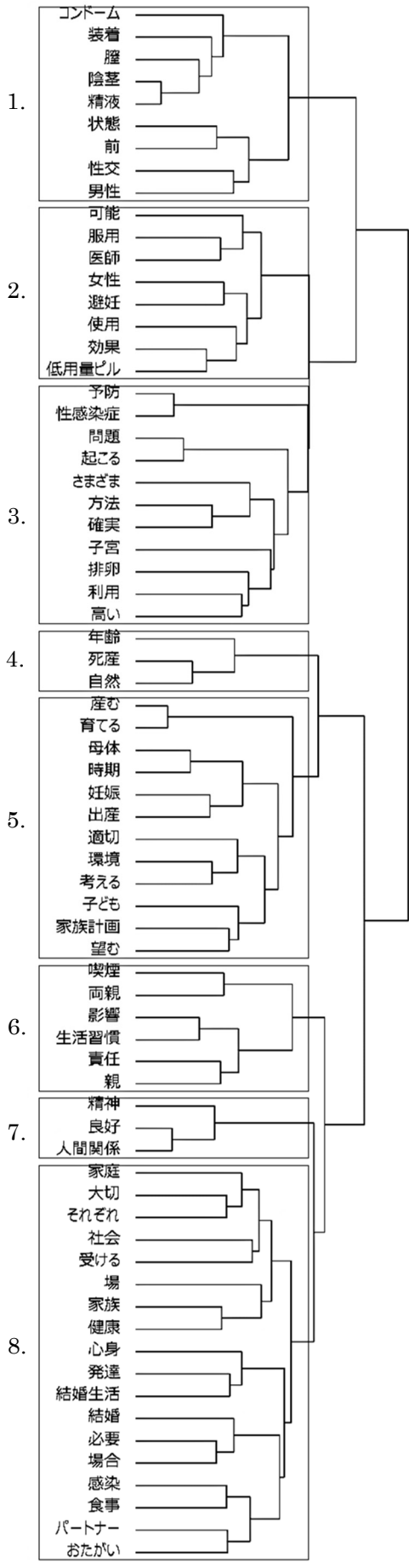


図3 『結婚生活・家族計画』階層的クラスター分析

**表 10 『性感染症・エイズとその予防』
コーディングルール**

- * 自分と相手
'自分や相手' or '相手も自分も'
- * 女性
女性 and not (ワクチン or 子)
- * 感染者
感染者 and (精液 or 膈分泌液 or 粘液 or 性的接触 or 性行為 or 性器)
- * 人 (単数)
'別の人' or '感染している人' or '感染していない人'
' or '相手が関係した人' or '性感染症の人' or '感染した人'
- * 人 (複数)
'二人につながっている人'
- * 性別が限定される語 (一人)
<* 女性> or 男性 or 彼 or 異性 or 同性
- * 性別が限定されない語 (一人)
相手 or 自分 or パートナー or 他の人 or ある一人 or <* 感染者> or <* 人 (単数)>
- * 性別が限定される語 (複数)
男女
- * 性別が限定されない語 (複数)
若い人たち or 青少年 or それぞれの人 or 多くの人 or 二人 or 不特定多数の人 or <* 人 (複数)> or <* 自分と相手>
- * 性別が限定される語
<* 性別が限定される語 (一人)> or <* 性別が限定される語 (複数)>
- * 性別が限定されない語
<* 性別が限定されない語 (一人)> or <* 性別が限定されない語 (複数)>
- * 異性愛が暗黙の前提
near(女性-男性)[b2]
- * 性的指向に中立的
<* 性別が限定されない語> and not <* 性別が限定される語>
- * ①感染経路と病原体
((精液 or 膈分泌液 or 粘膜 or 病原体 or 性行為) and not 予防) or (性的接触 and not 予防 and not 避ける) or (感染 and 性的接触 and not 予防 and not 受診) or (感染経路 and not (精液 or 膈分泌液 or 粘膜 or 病原体)) or (感染 and 場合 and not 子 and not 検査)
- * ②性感染症の症状
膿 or 尿道 or 排尿 or おりもの or 腹痛 or 腹膜炎
- * ③自覚症状の現れにくさ
(症状 and (多い or 出る or 発病) or 自覚 or (潜伏期 or 長い) and 自覚) or 潜伏
- * ④増加傾向と低年齢化
(増加 and not おりもの) or (増加 and 傾向) or 広がる or (数 and 増加) or (近年 and not ワクチン and not 発病) or (性感染症 and 問題 and not 流産 and not 不妊 and not ワクチン)
- * ⑤有効な予防方法
(正しい and (使う or 利用 or 行動)) or 有効

or コンドーム or 避ける or (予防 and 方法) or (接触 and 避ける)

- * ⑥検査と治療
((治療 or 検査) and 受ける) or 保健所 or 検査 or 受診 or 治る or 早期 or 治療

**表 11 『結婚生活・家族計画』コーディング
ルール**

- * 人 (複数)
'異なる生活をしてきた者どうし' or '自分たち'
- * 性別が限定される語 (一人)
女性 or 男性 or 配偶者
- * 性別が限定されない語 (一人)
パートナー or 自分 or 未成年者 or 異なる生活をしてきた者 or 恋人 or 当人
- * 性別が限定される語 (複数)
男女 or 夫婦
- * 性別が限定されない語 (複数)
家族 or おたがい or 2 人 or 私たち or 若い人たち or 当人 or <* 人 (複数)>
- * 性別が限定される語
<* 性別が限定される語 (一人)> or <* 性別が限定される語 (複数)>
- * 性別が限定されない語
<* 性別が限定されない語 (一人)> or <* 性別が限定されない語 (複数)>
- * 異性愛が暗黙の前提
near(夫婦-おたがい)[d0] or near(夫婦-パートナー)[d0] or seq(男性-女性-おたがい)
- * 性的指向に中立的
<* 性別が限定されない語> and not <* 性別が限定される語>
- * ①良好な人間関係
(良好 and 人間関係) or (精神 and (発達 or 安定 or 健康 or 自立))
- * ②結婚生活と健康
結婚生活 or 結婚 or (結婚 and 家庭) or (心身 and (発達 or 結婚)) or (健康 and (結婚 or 結婚生活)) or 暴力
- * ③家族と健康
((両親 or 親) and (喫煙 or 生活習慣 or 食事)) or (生活習慣 and 食事) or (健康 and 影響 and not 家族計画) or 感染 or (健康 and 家族 and not 家族計画)
- * ④家族計画
産む or 育てる or 母体 or 時期 or 妊娠 or 出産 or (環境 and (成育 or 生育)) or 家族計画 or 望む or (健康 and (母体 or 妊娠 or 出産 or 家族計画))
- * ⑤各避妊法とその特徴
コンドーム or 装着 or 膈 or 陰茎 or 精液 or (性交 and 前 and 装着) or (予防 and 性感染症) or (避妊 and 問題 and 起こる) or (避妊 and 方法) or (確実 and not 望む) or 子宮 or 排卵 or (避妊 and 高い) or 使用 or 医師 or 効果 or 低用量ピル

4. コーディングルールによる類似度行列

および掲載図分類の結果と考察

類似度行列では、人物を指す語の使い分けがされていることを示唆する数値の基準を 0.1 以上の差があるものとし、《性別が限定される語》と《性別が限定されない語》および《異性愛が暗黙の前提》と《性的指向に中立的》の組み合わせで数値を比較した。また、類似度の数値が高いほど強い共起関係にあると言えることから、本研究では結果全体を概観したうえで、特定の種類の人物を指す語または表現を多く用いる傾向があることを示唆する数値の基準を 0.3 とし、結果の読み取りを行った。

コーディングルールによる類似度行列の結果から、記述では、「相手」、「私たち」、「おたがい」といった本来性別が限定されない語が、「異性」や「男女」、「夫婦」といった性別が限定される語と併用されることによって、特定の性別や組み合わせを意味として付与されていることが示唆された。保健体育科教科書では異性愛を前提にして記述や描写を行っており、異性愛者の姿を用いて性の発達や性に関わる行動を提示していたと言える。以下、単元と分析内容ごとに結果と考察を述べる。

(1) 人物を指す語と掲載図に見る異性愛主義

①『異性への関心』に関する記述

『異性への関心』に関する記述では、性的欲求や異性への関心について述べる序盤、性衝動や性に関わる問題について説明する中盤、異性を尊重する態度の重要性を説明する終盤の三部構成を基本として話を展開していた。『異性への関心』の記述では、記述する内容によって人物を指す語から読み取れる性別の有無を使い分けており、異性愛を強調する記述では性別が限定される語が用いられ、異性愛を暗黙の前提とした記述では性別が限定されない語が用いられるという特徴がみられた（表 12）。

[表現の特徴] では、【①心身の成熟と変化】、【②異性への関心などの高まり】、【⑥異性を尊重する態度】は《性的指向に中立的》よりも《異性愛が暗黙の前提》との関連がより強かった。このことは、これらの 3 つの記述内容において、

性別が限定されない語が実際には異性や男女という意味を持って使われていたことを示唆すると考える。

[一人の人物を指す語] と [人物を指す語全体] では、【①心身の成熟と変化】と【②異性への関心などの高まり】はともに《性別が限定されない語》よりも《性別が限定される語》との関連が顕著に強かった。記述全体において序盤では、性別が限定される語を用いて記述することが多かったことが窺える。異性への関心について触れることが多い【①心身の成熟と変化】と【②異性への関心などの高まり】の記述では「異性」が多く用いられ、かつ「異性」は出現した人物を指す語のうち最も出現回数が多かったことが背景にあると考える。

終盤では異性を尊重する態度について記述していることから、終盤でも「異性」が用いられることが多くなったと考える。【⑥異性を尊重する態度】は、《複数の人物を指す語》の《性別が限定されない語》との関連が 0.414 であり、[表現の特徴] の《異性愛が暗黙の前提》との関連が 0.433 と顕著に強かった。このことから、終盤において性別が限定されない複数の人物を指す語が実際には男女を指しているという表現が多く用いられていたことが窺える。

序盤と終盤にあたるコードのうち、【⑤適切な態度と行動選択】は、一人の人物を指す語と人物を指す語全体において《性別が限定されない語》との関連がより強かった。[表現の特徴] では、《異性愛が暗黙の前提》との関連が 0.220、《性的指向に中立的》との関連が 0.310 となり、《性的指向に中立的》のほうがやや強いものの、どちらも関連がみられた。【⑤適切な態度と行動選択】では、態度や行動の対象を「異性」とする場合には性別を書き分ける表現を用い、対象を「相手」とする場合には「自分」と「相手」という関係性に着目した表現を用いていると考えられる。このことから、人物の性別に焦点を当てた記述と人物同士の関係性に焦点を当てた記述の 2 種類があり、焦点によって表現の仕方を使い分けていたと考える。

記述全体の中盤にあたる【③問題となる行為】と【④性衝動にまかせた行動】は序盤や終盤と

異なり、《性別が限定されない語》や《性的指向に中立的》との関連がより強く、人物の性別が限定されない表現によって記述をしていたことが示唆された。これは、中盤では既に異性愛が内容の前提となっており、人物の性別を明示しなくても、「自分」に対する「相手」や、行為の対象となる「人」を「異性」として読み手に解釈させることが可能になっているからだと考える。中盤では、性に関わる問題としてセクシュアルハラスメントや性感染症、望まない妊娠が取り上げられていた。これらは、相手を尊重する態度がテーマとなる事例であり、『性感染症・エイズとその予防』、『結婚生活・家族計画』など他の学習内容とも関連があることから取り上げられたと考える。そのうち、セクシュアルハラスメントと性感染症への感染は、異性間と同様に同性間においても成立するものである。そのため、この場合での「相手」や「人」は、異性と同性のどちらにも解釈することが可能である。しかし、望まない妊娠に着目すると、性行為が妊娠という結果につながるのは男女間に限られる。したがって、中盤の記述は性別が限定されない語を用いた表現が中心であったが、異性間を想定して記述をしていたと解釈するのが妥当である。

『異性への関心』では、異性愛を強調する序盤と終盤の記述では性別が限定される語を用いて直接的に異性愛が前提であることを示していた。それに対し、中盤の記述では異性愛を暗黙の前提としており、性別が限定されない語を用

いているが、実際には異性や男女間を想定していることが読み取れた。学習指導要領解説には異性への関心や異性の尊重に関する内容が記載されていることから、異性への関心は教科書において主要な題材として扱われている。しかし、人間の性的指向として異性愛のみを取り上げることは、同時に同性愛をはじめとする他の性的指向を存在しないものとみなすことになる。記述において「同性」が出現したのは、「異性と話すときに同性より緊張したりする」という記述の1回だけであり、異性愛に基づく文脈において用いられていた。同性愛など異性愛以外の性的指向を登場させる記述がみられなかったことから、『異性への関心』では異性愛以外の性的指向は不可視化されていたと言える。

②『性感染症・エイズとその予防』に関する記述

『性感染症・エイズとその予防』の記述では、基本的に人物を指す語の性別は明示されず、自覚症状に関する記述において男女を書き分けるという特徴がみられた（表13）。

記述内容のコードのうち、[一人の人物を指す語]と[人物を指す語全体]の《性別が限定される語》との関連がより強くみられたのは【②性感染症の症状】と【③自覚症状の現れにくさ】であった。性感染症の症状や自覚症状の現れやすさには男女で違いがあることから、男女別に記述をするために「男性」、「女性」といった語を用いることが多くなり、《性別が限定される語》との関連がより強くみられたと考える。

表12 『異性への関心』類似度行列

記述内容	人物を指す語							
	一人の人物を指す語		複数の人物を指す語		人物を指す語全体		表現の特徴	
	性別限定 される	性別限定 されない	性別限定 される	性別限定 されない	性別限定 される	性別限定 されない	異性愛が 暗黙の前提	性的指向に 中立的
①心身の成熟と変化	0.310	0.108	0.105	0.125	0.272	0.179	0.204	0.029
②異性への関心などの高まり	0.453	0.171	0.235	0.167	0.493	0.243	0.250	0.061
③問題となる行為	0.038	0.194	0.000	0.000	0.032	0.152	0.083	0.192
④性衝動にまかせた行動	0.019	0.105	0.000	0.150	0.016	0.083	0.042	0.111
⑤適切な態度と行動選択	0.200	0.367	0.091	0.171	0.173	0.375	0.220	0.310
⑥異性を尊重する態度	0.315	0.176	0.171	0.414	0.328	0.321	0.433	0.091

[複数の人物を指す語]では、【②性感染症の症状】を除く5つの記述内容のコードは《性別が限定される語》との関連がみられた。そのうち、【⑥検査と治療】以外は《性別が限定される語》との関連が0.000だったことから、多くの記述では複数の人物を表現する言葉として性別が限定されない語を用いていたことが窺える。また、[表現の特徴]では、【②性感染症の症状】を除く5つの記述内容のコードは《性的指向に中立的》との関連がみられ、そのうち【①感染経路と病原体】以外は《異性愛が暗黙の前提》との関連が0.000だった。これらのことから、『性感染症・エイズとその予防』では、人物を指す語の性別は限定されておらず、どの性別にも解釈可能な表現が多くされていたと考える。

性別が限定されない語が用いられ、どの性別にも解釈可能な表現が多くされていた背景として、ゲイ・バイセクシュアル男性を含む男性間性交渉者の性感染症や HIV への感染リスクの高さや新規感染者数の多さが広く認識されていること¹⁹⁻²¹⁾があると考えられる。学習指導要領解説には「エイズの主な感染経路は性的接触である」と記載されている。調査対象となった各教科書には HIV の感染経路として異性間と同性間の両方の性的接触を挙げる記述やグラフがみられ、異性間とともに同性間の性的接触についても取り上げられていた。このことから、性的接触による性感染症や HIV への感染は異性間に限らないことが前提に含まれていたことが窺える。ただし、ここで同性間として想定

されているのは主に男性同士であり、女性同士については想定から抜け落ちている可能性が高い²²⁾。

③『結婚生活・家族計画』に関する記述

『結婚生活・家族計画』では、結婚生活に関する記述では性別が限定される語によってパートナーや家族の関係にある二人が男女であることを示しながら記述がされ、家族に関する記述では避妊法に関する記述を除いて基本的に性別が限定されない人物を指す語が用いられるという特徴がみられた(表14)。

[複数の人物を指す語]の《性別が限定される語》との関連をみると、記述内容のコードのうち関連が0.1以上であったのは【①良好な人間関係】と【②結婚生活と健康】であった。この2つの記述内容では結婚について取り上げられており、婚姻関係にある二人を「夫婦」と表現したり、「結婚する男女」、「生まれ育った環境のことなる男女」など「男女」を用いて表現していた。【②結婚生活と健康】は、《性別が限定される語》よりも《性別が限定されない語》との関連がより強かった。

これらのことから、結婚生活に関する記述では、「夫婦」、「男女」といった性別が限定される語と、「おたがい」、「パートナー」などの性別が限定されない語の両方が使われていたことが読み取れる。また、【②結婚生活と健康】は、《性別が限定されない語》や《性的指向に中立的》により強い関連がみられた。婚姻関係にある二人は男女であることが既に前提になっている

表 13 『性感染症・エイズとその予防』類似度行列

		人物を指す語							
		一人の人物を指す語		複数の人物を指す語		人物を指す語全体		表現の特徴	
記述内容	性別限定	性別限定	性別限定	性別限定	性別限定	性別限定	性別限定	異性愛が暗黙の前提	性的指向に中立的
	される	されない	される	されない	される	されない			
	0.022	0.375	0.000	0.092	0.022	0.333	0.016	0.322	
	0.378	0.000	0.000	0.000	0.368	0.000	0.000	0.000	
	0.163	0.086	0.000	0.043	0.160	0.075	0.000	0.076	
	0.018	0.119	0.000	0.371	0.018	0.214	0.000	0.217	
	0.000	0.100	0.000	0.114	0.000	0.118	0.000	0.119	
	0.054	0.155	0.020	0.061	0.068	0.163	0.000	0.165	

ため、以降の記述では、ある二人がパートナーや家族関係にあることを表せる「おたがい」や「パートナー」といった語を用いたことが考えられる。

家族に関するコードである【③家族と健康】と【④家族計画】は、《性別が限定されない語》や《性的指向に中立的》により強く関連がみられた。【③家族と健康】は《性別が限定される語》や《異性愛が暗黙の前提》との関連が全て0.000となり、性別の要素が含まれない表現を用いていたことが読み取れる。【①良好な人間関係】と【②結婚生活と健康】での記述によって、結婚した男女が子どもを産み育てて家族を形成するという文脈があるため、家族に関する記述では性別が限定される語を用いて表記する必要がなく、性別が限定されない語によって記述がされていたことが考えられる。

『結婚生活・家族計画』において男女の組み合わせのみを想定しているのは、現在の日本では同性婚が法整備されていない（2022年7月時点）ために性的マイノリティが婚姻制度から排除されていることや、近代の家族制度にも異性愛規範が適用されている^{23,24}ことから、性的マイノリティのパートナー関係や家族形成が想定されていないことが背景にあると考える。婚姻制度や家族形成にみられる異性愛主義を受けて、『結婚生活・家族計画』では結婚や家族形成を行う主体として男女間のみを想定しているために人物の性別を明示する必要がなく、両者の関係性や立場を示すことができる「自分」、「相

手」、「おたがい」、「パートナー」などの性別が限定されない人物を指す語が多用されていたと考える。

④掲載図

分析対象となった図は26枚であった。内訳は『異性への関心』7枚、『性感染症・エイズとその予防』14枚、『結婚生活・家族計画』5枚であった。『異性への関心』と『結婚生活・家族計画』では全て人物を描いていた。『性感染症・エイズとその予防』では、人物を描いた図が9枚、人物に見立てた図形を描いた図が5枚であった。26枚の図のうち、13枚の図には説明文が付されていた。掲載図のうち、異性愛が読み取れた図は20枚、同性愛が読み取れた図は2枚、性的指向に中立的である図は6枚であった。同性愛が読み取れた2枚の図は、どちらも性感染症の感染ネットワークを表した図であり、異性愛も同時に読み取れる図であった。掲載図の説明文のうち、異性愛を前提にした文章は6つ、性的指向に中立的である文章は7つであった。同性愛のみを前提にした文章はなかった（表15、16）。

言語と異なり、図では直接的に人物の性的指向を描写し表現することになるため、より異性愛性や同性愛性が読み手に伝わりやすくなる。人々の意識の中に異性愛が前提にある社会では、異性愛は自然で当然のことであり、同性愛は前提とされていない。図から性的指向を読み取る時、異性愛と同性愛では受け取り方が異なることが予想される。同性愛が読み取れる形で

表 14 『結婚生活・家族計画』類似度行列

記述内容	人物を指す語							
	一人の人物を指す語		複数の人物を指す語		人物を指す語全体		表現の特徴	
	性別限定される	性別限定されない	性別限定される	性別限定されない	性別限定される	性別限定されない	異性愛が暗黙の前提	性的指向に中立的
	0.000	0.200	0.154	0.086	0.057	0.146	0.111	0.121
	0.088	0.348	0.119	0.250	0.169	0.362	0.050	0.232
	0.000	0.073	0.000	0.333	0.000	0.271	0.000	0.342
	0.078	0.146	0.026	0.167	0.069	0.161	0.029	0.148
	0.193	0.015	0.000	0.041	0.172	0.037	0.021	0.027

描いた場合、性的指向の表明や強調の意図がなくてもそのような意図を持って描かれた図として受け取られてしまう可能性が高い¹⁹⁾。したがって、掲載図で恋愛感情や性感染症、結婚や家族といった事柄を描く際は、学習内容が異性愛を前提にしていることに加え、性的指向の表明として受け取られないことから異性愛に基づいて描かれることになることを考える。また、掲載図には記述された内容を視覚的に補い示す役割があることから、性別が限定されない語を用いて性的指向に中立的な記述がされたとしても、異性愛に基づいた内容として解釈されてしまう可能性が考えられる。

(2) 記述が担う異性愛主義の再生産

記述など言葉を用いる行為は、社会の権力関係やその社会で常識となっている考え方（イデオロギー）を作り上げる過程となっている²⁵⁾。保健体育科教科書では、性の発達や性に関わる行動に関する内容を異性愛に従って記述や描写をしていた。これは、学習指導要領とその解説の中で異性への関心に関する記述があることを踏まえて、教科書の作成プロセスにおいて言葉の使い方や人物の描き方に異性愛主義が反映されていることが背景の一つにあると考える。

異性愛を暗黙の前提とした記述や描写から、読み手である児童生徒は異性愛が人々の行動や考えを決定づけるイデオロギーとなることを隠れたカリキュラムとして学習していると考えられることができる。また、性教育に関する記述を読んで解釈するにあたり、児童生徒は記述に埋め込まれた異性愛イデオロギーを受け取るだけでなく、児童生徒自身が無意識に持っている常識や価値判断に照らし合わせながら解釈を行っていると考えられる¹⁵⁾。異性愛主義に基づく性教育の記述は、これまでの生活の中で児童生徒の中に形成された異性愛に関する常識や価値観と相互に関連づけられていくことによって、その円滑な内容理解がより促進されるとともに、結果として異性愛主義の再生産につながっていくと考えられる。そして、性教育の学習内容に異性愛主義が反映されることで、性教育で扱われる性的健康は異性愛者の実態や価値観、性的行動の文脈に合う形で取り扱われることになり、性的マイノリティの性的健康は不可視化され、学習内容から抜け落ちることにつながることを考える。

表 15 掲載図および説明文から読み取れる性的指向

読み取れる性的指向		掲載図			図の説明文			
		異性愛	同性愛	中立的	異性愛	同性愛	中立的	説明文なし
『異性への関心』	人物	6	0	1	4	0	0	3
	図形	0	0	0	0	0	0	0
『性感染症・エイズとその予防』	人物	6	1	3	2	0	2	5
	図形	3	1	2	0	0	4	1
『結婚生活・家族計画』	人物	5	0	0	0	0	1	4
	図形	0	0	0	0	0	0	0
合計	人物	17	1	4	6	0	3	12
	図形	3	1	2	0	0	4	1
	合計	20	2	6	6	0	7	13

表 16 掲載図と説明文の組み合わせ

		図の説明文が 前提とする性的指向	
		異性愛	中立的
掲載図 読み取った性的指向	異性愛のみ	5	3
	異性愛+同性愛	0	2
	中立的	1	2

(3) 多様な性を反映した保健体育科教科書の 実現に向けて

UNESCO は、教育カリキュラムおよび学習教材について、内容やイラストでの表現を含め性的指向および性自認/表現に関して根拠に基づいた包括的なものであることを保証するように勧告を出している²⁶⁾。性の多様性に基づいて性教育の学習内容を表すことは、性的マイノリティの児童生徒が持つ学習権の保障だけでなく、全ての児童生徒に対する性の多様性を前提とした性教育の平等な提供につながると考える。本研究では、性教育に関する記述と掲載図について性別の観点から検討してきた。多様な性を反映した保健体育科教科書を実現するためには、異性愛に偏ることなく様々なセクシュアリティに対して中立的な表現を行うことと、性の多様性に関する学習内容を取り入れることが必要になると考える。

記述では、基本的に性別が限定されない人物を指す語を用いるようにすることが求められると考える。これにより、性教育に関する記述に様々なセクシュアリティを当てはめて解釈をすることが可能になる。また、性別が限定されない語を用いたとしても、性別が限定される語と併用することで特定の性別や組み合わせが意味として付与され、セクシュアリティに対する中立性が損なわれてしまうことが予想される。可能な限り性別が限定される語と限定されない語の併用を避けるようにすべきである。

掲載図では、複数の人物を描写する場合は男女の組み合わせだけでなく、男性同士や女性同

士の組み合わせも取り入れるようにすることが求められると考える。異性愛が読み取れる図を一目で表現内容が分かるように描写するのに対し、同性愛が読み取れる図を表現が読み取りにくい形で描写した場合、「同性愛は表立って表現されるにふさわしくない、同性愛者は陰に隠れるべきものである」というメッセージを読み手に与える可能性がある。同性愛が読み取れる図も、異性愛が読み取れる図と同等に明示的な表現で描写されるべきである。同性愛の描写は男性同士の組み合わせが描かれることが多いが、同性愛描写を男性同性愛だけで行うことは、女性同性愛の不可視化を促進させる可能性がある。掲載図では様々な性別の組み合わせによって人物を描写し、複数のセクシュアリティを対等に示すべきである。

諸外国の教科書に掲載されている性の多様性に関する学習内容の例としては、性的指向とセクシュアリティ、ジェンダーアイデンティティ、トランスジェンダー、同性同士の恋愛や性行为、同性同士のパートナーシップや結婚、同性愛嫌悪や偏見、性の多様性を支持する取り組みや権利についてなどがある²⁷⁾。多様なセクシュアリティの尊重だけでなく、見落とされやすい性的マイノリティの性的健康の観点からも性教育の学習内容を構成していく必要があると考える。

人間のセクシュアリティの多様性は、本来は性教育の根幹に位置づけられるべき学習内容である。性の多様性を異性愛とは異なる個別の事例とみなし、発展的な内容として扱うのではなく、性教育を支える基礎となる概念として組み込んでいくことが望ましいと考える。異性愛は多様な性のうちの一つであり、性教育全体を通して同性愛や両性愛をはじめとする様々なセクシュアリティは異性愛と対等な存在であることを示すことが求められる。

5. 結論

本研究は、平成 20、21 年に改訂された中学校および高等学校学習指導要領^{15,16)}に準拠する保健体育科教科書の性教育に関する記述で用いられた「人物を指す語」と掲載図に描かれた「人物」に着目して性別の観点から検討することで、異性愛を前提にして記述や描写をしていることを明らかにすることを目的として行った。

保健体育科教科書の性教育に関する記述では、「相手」、「私たち」、「おたがい」といった本来性別が限定されない語が、「異性」や「男女」、「夫婦」といった性別が限定される語と併用されることによって、特定の性別や組み合わせを意味として付与されていることが示唆された。性別が限定される語と限定されない語を併用することにより、以降の記述において性別が限定されない語を特定の性別や組み合わせを指す語として用いることが可能になっていた。また、『異性への関心』において、「異性への関心が高まる」という旨の記述によって性教育全体の学習内容の前提を異性愛に限定していることから、言語表現によって人物の性別を明示しなくても「異性」や「男女」を指す語として読み取らせることが可能になっていた。つまり、性の発達や性に関わる行動の主語として用いられている「自分」、「自分たち」、「私たち」といった性別が限定されない語は間接的に異性愛者を指しており、性的マイノリティは主語が指す対象に含まれていないと言える。掲載図についても、大半は異性愛を反映させて人物を描いており、記述内容の解釈に影響を与える可能性があることが考えられた。

以上のことから、保健体育科教科書では異性愛を前提にして記述や描写を行っており、異性愛者の姿を用いて性の発達や性に関わる行動を提示している。性的マイノリティは発達や行動の主体に含まれておらず、不可視な存在に位置付けられているとともに、異性愛者と同等に持っている性の主体性が提示されていないと言える。

6. 今後の展望

本研究の調査対象となった教科書が発行された平成 27 年以降では、自治体における同性パートナーシップ制度の導入の広がりといった動きをはじめ、社会において性的マイノリティの理解促進や権利保障に向けた取り組みが少しずつ進んでいる。

令和 3 年度から中学校にて、令和 4 年度から高等学校にて使用される新学習指導要領に準拠した保健体育科の教科書では、新学習指導要領には盛り込まれなかったものの、社会の情勢を踏まえて性の多様性や性的マイノリティに関する内容を取り上げており、記述が大幅に増えている^{28,29)}。教科書研究を継続するにあたり、性に関わる記述の新旧比較と掲載内容の分析が今後の課題として挙げられる。性の多様性を踏まえた内容構成により、記述にて用いられる人物を指す語の特徴や掲載図の描写内容にも変化が見られることが予想される。ただし、新学習指導要領には性の多様性を踏まえていない「異性への関心」に関する記述がそのまま引き継がれていることから、記述や掲載図に見られる異性愛主義については引き続き調査が必要である。

また、教科書にて性の多様性や性的マイノリティに関する内容を取り上げる教科は保健体育をはじめ、家庭科、公共、国語、美術など複数の科目に広がっている^{28,29)}。性の多様性や性的マイノリティに関する内容がどのように従来の学習内容に組み込まれているのかについて、各教科の特質を踏まえながら特徴を示していくことが必要である。

このように、今後の展望の方向性は幅広く、セクシュアリティの観点による教科書研究の発展が期待できる。

7. 付記

本研究は、岡山大学大学院教育学研究科修士課程の修士論文の一部である。また、令和 2 年度公益財団法人教科書研究センター大学院生の教科書研究論文助成事業の助成を受けており、助成を受けた論文を加筆修正したものである。なお、本論文に関して開示すべき利益相反はない。

8. 分析対象とした教科書

戸田芳雄, ほか 19 名 : 新編 新しい保健体育, 東京書籍, 東京, 2015.

高石昌弘, ほか 23 名 : 新版 中学校保健体育, 大日本図書, 東京, 2015.

本村清人, 衛藤隆, ほか 24 名 : 保健体育, 大修館書店, 東京, 2015.

森昭三, 佐伯年詩雄, ほか 30 名 : 新・中学保健体育, 学研教育みらい, 東京, 2015.

和唐正勝, 高橋健夫, ほか 31 名 : 現代高等保健体育改訂版, 大修館書店, 東京, 2015.

和唐正勝, 高橋健夫, ほか 31 名 : 最新高等保健体育改訂版, 大修館書店, 東京, 2015.

北川薫, ほか 13 名 : 高等学校 改訂版 保健体育, 第一学習社, 広島, 2015.

9. 参考文献

- 1) 一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 : 「若者の性」白書 第 8 回青少年の性行動全国調査報告, p93-94, 小学館, 東京, 2019.
- 2) 渡辺大輔 : 「性の多様性」をめぐる教育・学習と性的マイノリティ支援のあり方, 日本教育政策学会年報, 24 : 56-65, 2017.
- 3) ユネスコ : 国際セクシュアリティ教育ガイドランス【改訂版】—科学的根拠に基づいたアプローチ—, p290, 明石書店, 東京, 2020.
- 4) 文部科学省, 学校教育法施行規則の一部を改正する省令案並びに幼稚園教育要領案, 小学校学習指導要領案及び中学校学習指導要領案に対する意見公募手続き(パブリックコメント)に寄せられた御意見等について, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afieldfile/2017/08/09/1387466_10_1.pdf, (閲覧日 2021/2/10)
- 5) 文部科学省 : 小学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 体育編, p108-109, 東洋館出版, 東京, 2018.
- 6) 文部科学省 : 中学校学習指導要領(平成 29 年度告示)解説 保健体育編, p217,227, 東山書房, 京都, 2019.
- 7) 性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全

国連合会, 性的指向および性自認を理由とするわたしたちが社会で直面する困難のリスト(第 3 版), [http://lgbtetc.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/困難リスト第 3 版\(20190304\).pdf](http://lgbtetc.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/困難リスト第3版(20190304).pdf), (閲覧日 2021/2/18) .

- 8) 岩田歩子ら : セクシュアルマイノリティの生きづらさと性教育に対するニーズ調査, 日本性科学会雑誌, 35(1) : 37-44, 2015.
- 9) プラウド岡山, 主に岡山県内の性的マイノリティを対象とした 学校生活に関するアンケート調査報告書, <http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/12079>, (閲覧日 2021/2/18) .
- 10) 文部科学省, 教科書, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/main3_a2.htm, (閲覧日 2021/5/13) .
- 11) e-Gov 法令検索, 昭和三十二年法律第三十二号 教科書の発行に関する臨時措置法, https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=323AC0000000132_20170401_428AC000000047, (閲覧日 2021/5/13) .
- 12) 井上輝子ら : 岩波女性学事典, p29, 岩波書店, 東京, 2002.
- 13) 加藤慶, 渡辺大輔 : セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援 増補版 : エンパワメントにつながるネットワークの構築にむけて, p89-94, 108, 開成出版, 東京, 2012.
- 14) 功刀俊雄 : 性の多様性と小学校保健教科書, 教育システム研究, 13 : 193-201, 2018.
- 15) 文部科学省 : 中学校学習指導要領解説 保健体育編, 東洋館出版, 東京, 2008.
- 16) 文部科学省 : 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編, 東山書房, 京都, 2009.
- 17) 中村桃子 : ことばとフェミニズム, p11-46, 勁草書房, 東京, 1998.
- 18) 樋口耕一 : 社会調査のための計量テキスト分析 —内容分析の継承と発展を目指して— 第 2 版, ナカニシヤ出版, 京都, 2020.
- 19) 風間孝, 河口和也 : 同性愛と異性愛, p50-52, 岩波書店, 東京, 2010.
- 20) 厚生労働省エイズ動向委員会, HIV 感染者及び AIDS 患者の年次推移(国籍別, 性別,

- 感染経路別), https://api-net.jfap.or.jp/status/japan/data/2019/nenpo/hyo_05.pdf, (閲覧日 2021/2/18) .
- 21) 厚生労働省エイズ動向委員会, 令和元 (2019) 年エイズ発生動向-概要-, <https://api-net.jfap.or.jp/status/japan/data/2019/nenpo/r01gaiyo.pdf>, (閲覧日 2021/2/18) .
- 22) 好井裕明: セクシュアリティの多様性と排除, p56-69, 明石書店, 東京, 2010.
- 23) 岩間暁子ら: 問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて, p27-28, 有斐閣, 東京, 2015.
- 24) 風間孝: 同性婚のポリティクス, 家族社会学研究, 14: 32-42, 2003.
- 25) 中村桃子: ことばとジェンダー, p i -vi, 勁草書房, 東京, 2001.
- 26) UNESCO, Out in the open education sector responses to violence based on sexual orientation and gender identity expression, https://www.right-to-education.org/sites/right-to-education.org/files/resource-attachments/UNESCO_out_in_the_open_2016_En.pdf, (閲覧日 2021/2/16) .
- 27) 橋本紀子ら: 教科書にみる世界の性教育, かもがわ出版, 京都, 2018.
- 28) 日本経済新聞, 21年度からの中学教科書「性の多様性」理解促進に工夫, <https://www.nikkei.com/article/DGXMZO57196990V20C20A3CR0000/>, (閲覧日 2021/2/22) .
- 29) 時事ドットコム, L G B T, 公共や家庭でパートナーシップ制度も一教科書検定, <https://www.jiji.com/jc/article?k=2021033000821&g=soc>, (閲覧日 2021/4/1) .